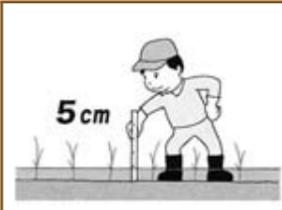


除草剤の上手な使い方

			
整地、代掻きは丁寧に 田面が露出していると除草剤の効果が十分に発揮できません。	処理時の水深は3～5cm 十分な水深を保つことで除草剤の効果が安定します。	落水、かけ流しはダメ!! 薬剤処理層を安定させるため、処理後1週間は落水もかけ流しも行いません。	処理後の水管理を十分に 散布後は田面を露出しないような水管理を。ただし、かけ流しは行わない。

除草剤の選び方

～あなたの田んぼにこんな雑草ありませんか?～



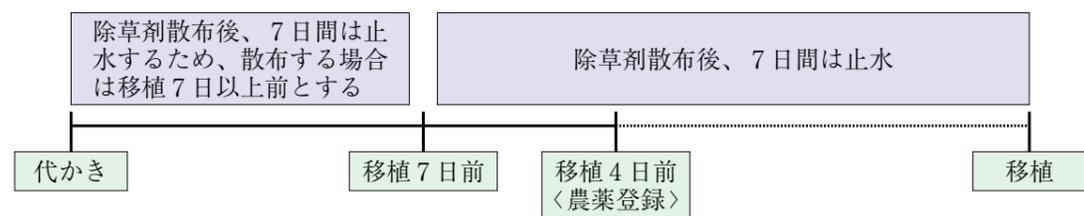
初 期 剤	初 中 期 一 発 剤
キルクサ 1 ^キ 粒 1kg/10a	ヤイバジャンボ 250g/10a 移植後3日～ノビエ2.5葉期
ソルネット 1 ^キ 粒 1kg/10a	ヤイバ豆つぶ 250g/10a
マーシュット 1 ^キ 粒 1kg/10a	エーワン 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植後5日～ノビエ2.5葉期
ダッシュワン 1 ^キ 粒 1kg/10a	エーワンフロアブル 500mℓ/10a
サキドリ E W 500mℓ/10a	ゲットスター 1 ^キ 粒 1kg/10a
ベクサーフロアブル	ゲットスターフロアブル 1kg/10a 移植後5日～ノビエ2.5葉期
ノビエ 1葉期まで	イッポン 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植直後～ノビエ2.5葉期
	バッチリ 1 ^キ 粒 1kg/10a
	イノーバDXアップ 1 ^キ 粒 1kg/10a
	クサトリ-DXジャンボH 1kg/10a 移植3日～ノビエ2.5葉期
	2成分剤
	ヤイバ 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植後3日～ノビエ3葉期
	メガゼータ 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植後5日～ノビエ3葉期
	メガゼータフロアブル 500mℓ/10a
	メガゼータジャンボ 400g/10a
ノビエ 2.5葉期まで	アピロキリオMX 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植時～ノビエ3葉期
	トップガンGT 1 ^キ 粒 75 1kg/10a 移植直後～ノビエ3葉期
	トレディワイド 1 ^キ 粒 1kg/10a 移植後5日～ノビエ3葉期
ノビエ 3葉期まで	トップガンGT 1 ^キ 粒 75 1kg/10a イネ1葉、ノビエ3葉まで
直播	バッチリ 1 ^キ 粒 1kg/10a

草種により適する薬剤が異なるので、除草体系等についての相談は各営農センターへ。

○水田において使用される農薬における止水期間の遵守について

- ・除草剤散布後の7日間は止め水し、排水路への落水をしてはいけません。
- ・止め水期間における農薬の流出を防止するため、畦畔の整備などの必要な措置を講じましょう。

止水期間のイメージ図



○お願い!!

農薬登録はありますが、環境への影響を配慮し、秋田県では、水田初期除草剤の移植前処理は行わないように指導されています。(どうしても移植前処理を行わなければならない場合は、散布後必ず『7日間止水』しましょう!)

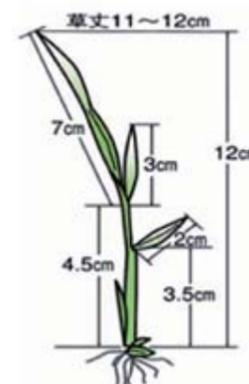
発行/秋田おばこ農業協同組合 監修/仙北地域振興局農林部農業振興普及課
仙北農業共済組合

苗半作 —おいしいお米作りは苗管理から—

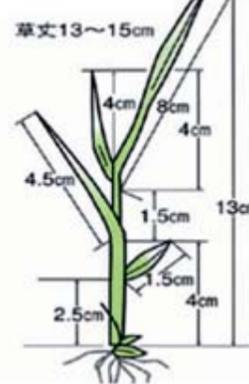
育苗期の管理

育苗期は気象変動が大きい環境変化に対応した温度管理に心掛けましょう。夜間、ハウス温度が10℃を下回るような低温時はストーブやロウソク等でハウス内の空気を循環させ、苗箱付近の冷気停滞を防ぎます。温度管理は、図を参考にして生育ステージに合わせて行ってください。

稚苗(2.5葉)



中苗(3.5葉)



稚 苗 (育苗ハウス内の温度)

緑化期	昼	20～25℃
	夜	10～12℃
第1葉鞘長		3.0～3.5cm
硬化期	昼	解放
	夜	5℃以上

中 苗 (育苗ハウス内の温度)

播種後20日間	昼	25℃以下
	夜	5℃以上
第1葉鞘長		2.5cm程度
2.5葉期以降	昼	解放
	夜	5℃以上

○追肥は葉齢に応じて

葉齢	稚 苗	中 苗
1.5葉期	窒素 1g	—
2.0葉期	—	窒素 1g
3.0葉期	—	窒素 1g

※1箱当たり

肥料名	区分	現物量	窒素成分	水の量
液肥2号	昼	10mg	1.2g	1 ^リ
	夜			

安心のネットワーク **NOSAI仙北**から

農機具共済

《春期》加入運動実施中!

- 1台当たり2,000万円まで加入OK!
- 新品価格までの加入が大事です。

稼動前に

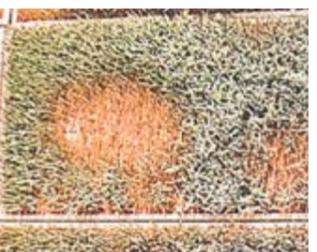
※点検と
※加入で

ゆとりの農作業を...



苗立枯病の見分け方

～苗立枯病は地際部からの発生がほとんどです。地際部の確認を!!～

 <p>育苗箱の種子層にやや太く白い菌糸がはびこり、床面にも繁殖する。出芽不良、生育不良、根の発育不良を引き起こし、ひどいものは枯死する。</p> <p>リゾーブス菌</p>			 <p>種初りの発芽直後から発生する。根および苗の地際部が褐変腐敗し、地上部は萎凋し、後に黄化して枯死する。罹病苗の地際部には白色あるいは紅色の粉状のカビが生えることが多い。</p> <p>フザリウム菌</p>		
防 除 対 策			防 除 対 策		
防除時期	薬 剤 名	希 積 倍 数 / 箱あたり散布量	防除時期	薬 剤 名	希 積 倍 数 / 箱あたり散布量
播種時	ダコニール 1000	500～1,000倍/500ml	播種時	ダコレート水和剤	400～600倍/500ml
	ダコレート水和剤	400～600倍/500ml		タチガレエース液剤	500倍/500ml
			発芽後	タチガレエース(M)液剤	
 <p>出芽後間もない時期に茎の地際部が水浸状に褐変し、急激におれ枯死する。地際部にはカビの発生がみられず、坪枯症状になる。また、2～3葉期になって、急に水分不足をきたしたように萎凋し、黄褐色～灰褐色となって枯死する。この症状は一般に”ムレ苗”と称される。</p> <p>ビスウム菌</p>			 <p>葉が黄変し、のち褐変して枯死する。地際部の褐変が特に著しい。床面には初め白色の菌叢が発生し、のち青緑色になる。</p> <p>トリコデルマ菌</p>		
防 除 対 策			防 除 対 策		
防除時期	薬 剤 名	希 積 倍 数 / 箱あたり散布量	防除時期	薬 剤 名	希 積 倍 数 / 箱あたり散布量
播種時	タチガレエース液剤 タチガレエース(M)液剤	500倍/500ml	播種時	ダコレート水和剤	400～600倍/500ml
発芽後			ベンレート水和剤	500倍/500ml 1,000倍/1,000ml	

育苗箱施用剤（殺菌・殺虫）の使用にあたって

薬 剤 名	対象病害虫				施用量	本剤の使用回数	使 用 時 期
	いもち病	フタオビコヤガ	イネミスソウシ	イネドロオインシ			
嵐 プ リ ン ス 箱 粒 6	○		○	○	50 g / 箱	1	床土混和または播種時(覆土前)～移植当日
ツ イン タ ー ボ 箱 粒 08	○		○	○		1	〃
デジタルコラトップアクタラ箱粒	○		○	○		1	移植前3日～移植当日
ファーストオリゼプリンス粒6	○		○	○		1	播種時(覆土前)
D r オ リ ゼ プ リ ン ス エ ース 粒	○		○	○		1	緑化期～移植4日前
D r オ リ ゼ プ リ ン ス 粒 6	○		○	○		1	緑化期～移植当日
D r オ リ ゼ フ ェ ル テ ラ 粒	○	○	○	○		1	〃

注：耐性菌対策のため、嵐剤の50g/箱処理は次の地区では使用しないようにしましょう。

- 採種圃がある地域（旧市町村単位又はそれに準じる地域）
- ①以外で採種圃に隣接する地域。
- ①、②の範囲については最寄りの指導機関へ相談してください。

水稲育苗後の野菜作付けの注意

(1) 水稲育苗箱への薬剤処理について

- ① 薬剤を床土混和及び、は種時覆土前に使用する場合は、育苗ハウスの外で作業し、薬剤や薬剤を混和した床土を育苗ハウス内にこぼさない。
- ② 薬剤のかん注及び散布時は、育苗箱周辺へのドリフトに十分注意し、育苗ハウス内の土壌に薬剤を飛散させない。

(2) 水稲育苗箱の下に敷く不透水性無孔シートの取り扱いについて

- ① 育苗ハウス内では、育苗箱の下に無孔シートを敷き、育苗期に使用した薬剤が土壌に浸透しないようにする。
- ② 無孔シートの使用にあたっては、破損等がないか、育苗期間中の荷重に耐えられる素材であるか等の点検を行う。また、ハウス内の均平と異物除去を行い、シートの破損を防ぐ。
- ③ 育苗ハウス内に無孔シートを敷くときは、かん水後の水が無孔シート外の育苗ハウス土壌に漏れないように、無孔シートの周辺を高くするなどの対策を講ずる。
- ④ 無孔シートを重ねて覆う場合は継ぎ目に防水テープを貼るなど、重ねた隙間からかん水した水がハウス内土壌に漏れないようにする。
- ⑤ 育苗期間を通じて無孔シートを破らないように作業する。
- ⑥ 育苗終了後の無孔シート撤去時は、無孔シート上の水や土壌などを育苗ハウス内の土壌にこぼさないように作業する。

(3) 余り苗について

余り苗などの廃棄する苗や、育苗箱に使用した培土は、薬剤の残留が懸念されるため、野菜を作付けするハウスやほ場に持ち込まず、適正に処分する。

(4) その他、残留リスクを軽減できる方法について

薬剤を移植前に使用する場合は育苗ハウスの外で使用する。

- ① 畦畔等に運んだ育苗箱に薬剤を散布する。
- ② 田植え同時薬剤散布機を用いる。

耕深の確保

耕起はできるだけほ場が乾いた状態でを行い、耕深15cmを確保する。（白未熟粒の発生を未然に防ぐ）また、深耕の効果は適度な透水を伴ってはじめて期待できることから、代かきは耕深よりも浅くする。

粘土質ほ場では過度の代かきは作土下層の透水性を阻害するほか、土壌還元の促進や表層剥離の原因になるので注意する。一方、漏水田では深めの代かきで漏水防止を図る。なお、代かきは浅水で行い、稲わらや稲株を埋没させる。

適期田植と適正な栽植密度の確保

田植は、日平均気温で稚苗13℃、中苗14℃以上の日に行う。できれば日中の最高気温20℃以上の日に実施し、最高気温15℃以下の日は行わない。

活着を良くするため老化苗に注意し、適正な葉齢で田植する。

苗の1株の植え付け本数は、稚苗で4～5本、中苗で3～4本とする。

初期の分けつを安定的に確保するため、植え付けの深さは稚苗2cm、中苗は2.5cmとし、3cm以上の深植えにならないように注意する。坪当たり株数は70株を基本とし、主茎と3～6号分けつを主体として6月25日頃までに穂数を確保する。

WCS用イネ栽培における病害虫対策

WCS用イネの病害虫防除は基本的には食用イネと同様です。

病害虫の発生源とならないよう、また農薬残留のないよう、使用基準を十分に遵守してください。